カトリック高松教区報

２０１４年９月２１日（第１６３号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
パンの形の中にキリストを見るように努めながら、私たちは一日を始めます。
日中は、貧しい人々の疲れた体の中におられるキリストに出会うために出かけます

違いが豊かさになる教会共同体を目指して

大阪教会管区司牧者研修会で在日外国籍信徒の問題が取り上げられた。この問題は現在の高松教区にとっても直面している課題である。そこで私たちの教区、各小教区の課題として考えて頂くために同研修会の内容や感想を紹介する。

在日外国籍信徒について考える（上）

高松教区司教　諏訪榮治郎

「大阪教会管区司牧者研修会」が6月10日～12日、大阪サクラ・ファミリア教会で行われ、約１５０人の司祭・助祭・修道者が集った。その主な内容と感想を紹介する。

（1）より豊かな交わりと証の教会へ成長する

今や、どの教会共同体も外国から移住された方々と共に多文化、多言語の神の民として成り立っています。それによる喜び、交わり、支え合いが生まれ喜びが生まれています。しかし、反面さまざまな状況や課題が浮き彫りになっています。人権社会問題を担っている「大阪教区シナピス」において移住外国人の相談は法律問題、社会生活問題（生活保護、国籍、DV、帰化、結婚、子ども、医療）など様々です。相談ケースはアジア人、中南米人の事例が多くなっています。今や「日本の教会は日本人だけの教会ではない。」という状況の中で、教会が「人を大切にする」という福音の根幹に直面しているのです。

私たちはその文化、生活様式の違いを認め合い、より豊かな「交わりと証しの教会」へと成長していく「時の声」に応えたいと思っています。この研修会を通して私たちが新しい福音宣教の姿を発見し、さらなる一歩を歩むことができるようにとの趣旨のもと約１５０名の司祭・助祭・修道者が集いました。

（2）日本社会の中で

「私たちは労働者を呼んだが、来たのは人間だった。・・」。

日本にたくさんのフィリピーナが来日しています。T教会はお店の暴力から逃げ出してくる彼女たちの避難所となりました。日本政府によって国内経済を支えるために中南米からの労働者移住を緩和したころ、阪神淡路大震災によって足を負傷したペルー人女性を思い出します。

当時震災による負傷等の医療は無料と定められていました。彼女に付き添って医療券発行を申請した際、彼女がいわゆる「オーバーステイ」である事が分かったとたん、窓口の役人は「日本にいるはずの無い人が、けがをするはずが無いでしょう」と、無料医療券を発行するのを拒みました。

また家族とともに日本に来た14才の少年がいました。中学校には行かず現場で働いていました。今や外国人無しでは成り立たない日本の社会ですが、人間が大事にされるのは、日本にとって「役に立つ時だけ」というのは本当に深刻な悲しい歴史をつくります。

『全ての移住労働者とその家族の権利保護に関する条約』（１９９０年国連条約）に日本は２０１０年現在、批准していません。「我々は労働者を呼んだ、来たのは人間だった。」このことの気づきが遅いのではないでしょうか。

在滞日外国人との出会いの中で、「外国人が暮らしやすい社会は、日本人も暮らしやすい」事を実感しております。私たちの周りには国籍の違いで区別（差別）され、同じ町で暮らしながら同じように生活出来ない仕組みがあります。医療を受ける権利、教育を受ける権利、わたしたちはまだま だ（教会の中でも）人を隣人として認め愛する事を学ぶ努力と祈りをせねばと思います。

以下すこし長い文章ですがこれからの教会のため司牧者研修会での意見を上げさせて頂きます。

「日本人だけの教会ではない」文化違うけど大切な兄弟姉妹

（3）司牧者から出された問題

①「外国籍の子供の教育」

・一つの小教区の半分ぐらいが外国籍。中年や若手はほとんど外国籍。「共生」がポイント。外国籍の方々がどう教会の中心になってくれるか。外国籍の方々が教会の正式のメンバーとなってゆくためにどうすればよいのか。また彼らの子供をどう教育するのか。

・心配なのは、ダブルの子、移住者の子供たちの問題。日本社会の中で対応できないのではないか。

・子供が日本語ができるからといって、日本語教育だけでほんとによいのか。母語に基づく子供のアイデンティティに配慮する必要がある

②「日本の教会の意識」

・日本人の信徒が外国人に対して心を開いているのかどうか。

・子供の誕生日パーティーのために信徒会館を貸してほしいと言ってきたフィリピン人信徒に対して、貸したくないと言う日本人信徒がいる。

・教会維持費の問題がある。「私たちの教会維持費で建てたものを、教会維持費を払わないあの人たちに使ってもらいたくない」。このように、払うか払わないで差別する事例が発生している。

・教会維持費を納める目的が、「私たちの教会共同体のため」という意識が過剰に強く前面に出てくると、私たち共同体とは関係ないと思われる事柄に使うことに抵抗感が生じる。教会のお金や施設は「私たちの物」という意識。献金は、神様のための無償の捧げ物のはず。しかしその側面が希薄となり、「私たち共同体」の福利厚生のためという側面ばかり強調されると、上述のような差別意識が生じてくるのではないか。したがってこうした一種の排除や差別は、外国人に対してだけおこるものでもない。日本人同士であっても起こりうる。

・日本人の信徒の常識がはたして世界の教会の常識なのかどうか。教会には国籍はないのではないか。本当に教会が国際化できるか。「日本人の教会」という概念をなくしていくこともテーマだろう。

・教会に対して「私たちの」という当事者意識はあってほしい。しかし、その「私たち」が問題となっている。教会の中の「私」「私たち」の内実は何か?メンバーシップの問題。教会において「私たち」を問う。

・何を絆として結ばれた「私たち」なのか?

・わたしたちが開かれているのかどうか。問題は教会内の共同体のあり方の問題。

（以下次号へつづく）

多国籍で和気あいあいの司祭団

高知で働きます皆さんよろしく

パーキアナータン師

4月から　江ノ口、赤岡教会の担当に任命されたクリスティ・パーキアナータンと申します。私はスリランカの北部のジャフナ出身です。２００９年12月14日に叙階され、まず最初に日本に行くように任命されました。２０１０年８月25日に日本に来てからは福岡の古賀教会で２年間過ごし、その間、日本語学校に通ったり、日本の生活に慣れるためにいろいろなことを学びました。

去年の１月から伊丹にある私が所属するオブレート会の修道院に住み、平日は、王たるキリスト幼稚園と伊丹教会の仕事をし、週末は大阪教区の共働司牧司祭として姫路ブロックにある加古川教会と西脇教会で働いていました。今年の復活祭が終ってから、高知に移り、教会の仕事に加えて、聖母幼稚園にも関わり、また高知刑務所の教誨師としても働いています。

私は叙階されて５年、日本に来てからまだ４年です。これから勉強しないといけないことがたくさんあるので、皆さんから教えていただければ、とてもうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

第10回大阪教会管区司牧者研修会in大阪サクラ・ファミリア報告（6.10～12）

先般、大阪で開催された大阪教会管区司牧者研修会のテーマ「違いが豊かになる教会をめざして」の高松教区としての取り組みについての分かち合いが諏訪司教を交えて開かれた。（参加者：イスマエル神父、西川助祭、ロビンソン神父、 ホルヘ神父、乾神父、フェルナンド神父、ブラザー八木）以下の提言については11月17日(月)に善通寺で行われる高松教区秋に司祭集会でも取り上げられる予定である。

◇この会議の中で次のような提言や意見が交わ　された。

インターナショナル・デイについて

▪インターナショナル・デイを地区･ブロック持ち回りで開催。▪インターナショナル・ デイの基本計画を定め、持続的活動とし、好結果に向けることが大切。

▪インターナショナル・デイを通じ、日本人と外国人との連携を深める機会とする。▪さまざまな問題が生じても、インターナショナル・デイを重ねていく内に、足りない部分の発見と成長に資することができる。

▪外国人司牧も対話の推進によって、その違いを豊かにしていきたい。

課題

▪リーダーや協力者を発見していく必要性がある。▪外国人司牧は日本人を含め教会共同体として考えていく。

▪一人ひとりの存在と尊厳を尊重する。・日本での定住者と短期滞在者とでは生活上の相違は大きく、彼らの生活苦などをよく理解し、ケースに応じた活動が求められる。

情報

▪外国人司牧への別機関誌ではなく、現在の教区報の中に組み入れたい。▪フェイスブックやホームページ、Eメールの積極的活用。▪個人情報に充分配慮しての外国人司牧データづくり。

青少年

▪外国人青少年の置かれた立場や環境を踏まえながら寄り添うことが最重要。▪柔軟で開放的な考えや価値観を持った邦人青年に、外国人司牧への協力者となってもらう。

▪青少年に対する行事やプログラムにおいて、外国人青少年への考慮は不可欠。▪外国人を含めた青少年対象のクリスマス会を地区･ブロックレベルで行う。

高松教区

▪高松教区でも外国人、難民、移住者を大切な司牧と位置づけたい。▪2015年は外国人司牧を教区テーマとしたい。

ICC Takamatsu Diocese
intl.catholic.community@gmail.com

"Catholic Ministry for Foreigners—Meeting summary"
(For summary in English, Spanish, and Japanese)—
Visit our facebook

外国人宣教司牧担当司祭　ロビンソン神父

はばたき

今年の夏は雨がよく降った。異常な集中豪雨で死者・不明者も多く出た。悲しみの中にいる被災者の上に神さまの慈しみがありますように。

先月号に昨年度『教区現勢調査』が載った。信徒を含めた総数は４６３９人、前年度より５人減。これまで高松教区は『信徒数５千人の日本で一番小さな教区』と表現されてきたが、いつのまにか５千人を切ってしまった。

この現状を信徒はどう見るのだろう。『時代の推移』と残念な思いで見る人やただ無関心に見過ごす人もいるだろう。『なんとかせんといかんじゃろ』と危機感を持ち、何らかの行動を起こす人もいるだろう。

そんな中で動いている小さな教会がある。老齢化が進み宣教力が低下した。でも『できることをできる形でやろう』と方針を決め、教会を訪れる人たちを入門講座に誘い、今では求道者が十数人に増えた。担当司祭だけでは手が足りず、急遽信徒たちが講師を務める。キリストを知りたい人たちへ「自分の信仰」をどう伝えようか苦労している。

毎日曜日、私たちはミサで聖体をいただき力をもらい『行きましょう』と励まされ宣教へ派遣される。さて、『神の民』として私たちは今から何をすればよいのでしょう。

右近の信仰を今考える

桜町教会　木越氏ら招き講演会

「ユスト高山右近祭講演会」が7月20日（日）、桜町教会（司教座聖堂）で開催された。

高山右近列福を間近に控え、それを待ち望みながら彼の存在が現代の私たちに何を意味しているのかを共に黙想するために、約70名程の人々が参加した。

諏訪司教の挨拶から始まり、第一部の発表へと移って行った。小豆島キリシタンの足跡をたどる会会長の日向光徳氏よりスクリーンに映るスライド映像を使い、端的に、「小豆島における高山右近とキリシタンの足跡をたどり、見えてきたもの」と題して説明が行われた。小豆島へのキリスト教伝来、高山右近の小豆島潜伏、又、島原の乱と乱後の移住との関連、小豆島に残存するキリシタン遺物と推測される石造物等について説明しながら、高山右近にとって人生の転換地点となったであろうこと等、様々な可能性について思いをはせさせてくれた。

木越邦子氏

日向光徳氏

第二部では、金沢からお越し頂いた、木越邦子氏による「高山右近の霊性を現代に生かすとは？」という題で講演が行われた。15～16世紀、ポルトガル語で書かれた告白録から、当時と現代の人間が抱えている問題（罪）が、根本的に大きな違いが無い事をヒントに話を進めて行かれた。右近が受洗した事と、九州の武将達が受洗したことの理由を比較しながら、彼が、信仰、文化面で、多くを吸収し、東西融合的人格形成がなされていった日本で初めての存在ではないか等説明された。又、当時の背景を考慮しながら、高山右近の生き方は、日本社会への挑戦でもあったこと、そして、金沢（加賀藩）に移ってから、その地での高山右近によるキリスト教の布教について話された。最後に、現代と戦国時代であった当時との類似点を政治問題、様々な事件、国際情勢等を例にしめしながらのお話は、考えさせられた。

質問等の後、祈りの部を西川助祭によって、沈黙と祈りのうちに講演会を終えた。

神のみ言葉を輝かそう

教区修道女連総会　アリヴァス師の呼びかけについて

6月28日（土）四国カトリック会館に於いて、２０１４年、高松教区修道女連盟総会が開催されました。午前中は教皇フランシスコが呼びかけられた、今年11月からの「奉献生活の年」にちなみ、1時間半にわたってドミニコ会士・ヴィセンテ・アリヴァス師による「奉献生活」講話を頂きました。

奉献生活における福音の喜びとして、人々が私たちを見て「この人たちは何故あんなにも喜び、幸せそうなのか」と思わせているか、と問いかけられました。神からの招きを恵として受け、日々、奉献の道を歩みながら神に帰る生き方に徹すべきでしょう。神が世界を造られたのは、「愛」からであって、私たちは神から出てその神の愛に帰る喜びを表わすことが、奉献者の姿なのです。私たちには自分の生き方、ことば、全てで日々、人々に神の愛を告げる使命があります。こうして私たちは、神に応え神に帰るのです。私たちのいるところで神の言葉が輝くなら、どんなに素晴らしく、またそれが私たちの使命でありましょう。

午後は、総会、会計報告に続き、司教様のお話で、私たちは福音の喜びにどのように生きているだろうか。イエスが「わたしはあなたを愛する」と、人の足を洗った姿にこそ「神の愛」が溢れていることを今一度思い起こしましょう。と呼び掛けられました。

最後に、司教様司式による感謝のミサを以て閉会いたしました。

Sr藤光幸子

前田司教大阪大司教に
9月23日（火）着座式

教皇フランシスコは、司教の任命を発表しました。着座式は9月23日午（日本時間同日夜7時）、カトリック大阪教区のレオ池長潤大司教（77歳）の定年による退任願いを受理し、新しい大司教に広島教区司教のトマス・アクィナス前田万葉（まえだ・まんよう）日大阪明星学園マリアンホールで行われる。

前田新司教は大阪教区の教区長としては歴代8人目、大司教区に昇格してからの大司教としては4人目となる。

大前田司教は１９４９年、長崎県の新上五島町生まれ。75年に長崎教区司祭に叙階、福江、浜脇、宝亀、俵町、田平、平戸ザビエル記念の各教会で司牧。その間に教区広報委員長、平戸地区長、教区顧問を務めた。２００６年4月にカトリック中央協議会事務局長に就任した。２０１１年広島教区司教三末篤實司教の退任に伴い同教区司教に任命。同年9月23日に司教に叙階された。

若い力　教区の青年たち　AYDに参加

アジアン・ユースデイ（アジアのカトリック青年大会）が8月10日から18日まで韓国で開催され、高松教区から10人が参加した。4人に感想を綴ってもらった。

盛り上がり　花火も

徳島教会　白鳥夏菜子

フェスティバル会場風景

16日は朝早くに港につき、空港近くの吉塚教会へいき朝食を用意してくださいました。出発前にベルナルド神父さまがミサをしてくださいました。福岡空港で4人の仲間と合流し、日本円を韓国のお金ウォンに替えました。手続きはATMのような機械でしたり、手書きで書類を書き、窓口で両替えしてもらったりでした。12時25分に福岡空港を飛び立ち、1時間ほどでソウルの仁川空港に到着しました。そこからバスで移動し、海美邑城（ヘミウプソン）に行きました。

この日はフェスティバルが開催され、現代風にアレンジされた韓国舞踊や、聖歌を現代風にアレンジして歌っているグループがいたり、有名バンドのライブがあったり、また花火も打ち上げられとても盛り上がっていました。

たくさんのアジアの若者が集まっており、その数に圧倒されながらも私たちもフェスティバルでおおいに盛り上がりました。フェスティバル終了後はホテルに帰りました。その途中でコンビニに寄り次の日の朝食を買いましたが、韓国で初めての買物でした。ウォンの使い方にあたふたしながらも買物をすることが出来ました。

フェスティバルが始まるまでの時間は海美邑城の中にある殉教者が処刑された場所や、建物などを見てまわったり、城壁の外側のまわりを楽器を持った人たちが行進しているのに出会ったり、待ち時間ではいろいろな人にも出会えました。

フェスティバルの初めはすごく堅苦しいものだと思っていました。でも、始まると韓国の方からのたくさんのおもてなしが伝わってきました。また有名バンドの若者むけライブなどで盛り上がり、とても楽しかったです。韓国1日目にして刺激されてしまいました。

スクリーンに映し出される花火

城址の一角にて

教皇ミサのお恵み分かち合いたい

またAYDやKYDに参加している日本人の仲間とも出会うことができてよかったです。韓国初日から、来てよかったと思える日でした。でも、少し気候が寒かったです。

若者よ　起き上がれ

松山教会　柳　周延

いざミサ会場へ

17日は教皇様の閉幕ミサの日でした。閉幕ミサにあたり、午前は韓国カトリック史上の、最初の司祭・聖人であるキム・デゴン・アンドレア神父の生まれたソルメ聖地を訪問しました。聖地の担当司祭とボランティアさんにソルメ聖地と韓国の殉教の歴史を詳しく説明していただきました。午後になり、ミサ会場のヘミ邑城（聖地）へ向かいました。

午後4時30分教皇様のパレードを皮切りに、ミサが始まりました。説教では今回アジアユースデーのタイトルであった「Asia（アジア）」、「Youth（若者）」、「Wake up（起き上がれ）」の三つを大きなテーマで語られました。ただ、安易に座り込んで主を求めてばかりいた私が、アジアのキリスト者として、殉教者達の跡を継ぎ、自らできることについて考えさせられる時を持つことができました。

教皇様を近くから見て、ミサに参加しただけで終わったということではなく、そのミサからいただいた恵みを積極的に分かち合いたいです。これからも、アジアの若者が、特に日本の若者がキリスト者として起き上がれるよう、高松教区の皆さん、お祈りください。

韓国の青年と夕食

徳島教会　嘉　凛人朗

18日には、韓国のオブレート会の皆さんと一緒に観光や韓国の青年たちとの交流会があったりました。オブレート会の皆さんとは、「南漢山城」という多くの殉教者の遺体が見せしめにつるされた城跡や、韓国民俗村に行き、韓国の伝統的な暮らしや文化に触れることができました。

夜は韓国の青年たちとの「チルボ教会」での夕食会でした。その教会の方々の手作り料理と、おかわりの勧めで温かく迎え入れてくださいました。また、韓国の青年たちとは日本のアニメやドラマの話で盛り上がり、日本のアニメのキャラクターのお土産を渡すと、とても喜んでくれました。

別れのあいさつにあった代表者の方の「祈りの中でまたお会いしましょう。」という言葉が印象的で、新たな絆が生まれたのを感じました。

この日は多くの人と交わることができ、喜びと恵みに満ちた一日でした。

オブレート会員との交流

胸痛む殉教の歴史

神学生　高山　徹

19日、4日目も、オブレート会の皆様にお世話になり、処々を訪ね、充実した1日となりました。

農村の再現地では、どこか懐かしさを覚えた一方、切頭山（処刑地）では、凄惨な歴史に胸が痛みました。明洞大聖堂においては、その荘厳さに圧倒されつつ、殉教者遺骨の安置場所にも心を留めました。

夕方には 博物館巡り班とお買い物班に分かれました。夕食を共にした後、惜しみながらオブレート会の皆さんとお別れしました。

明洞聖堂前にて

神学生便り
助祭　ソン・ヒョングン

皆さん、こんにちは。ヤコブ・ソン・ヒョングン助祭です。皆さんのお祈りのおかげで2月23日に助祭叙階の恵みをいただきました。遅くなりましたが心から感謝致します。

今年は日本カトリック神学院の東京キャンパスで助祭として哲学科生と共に過ごしています。助祭団は3人が編入してきて10人の助祭たちが一緒に実習したり勉強したりしています。

土・日曜日は東京教区の北町教会で司牧実習させていただいています。実習先では入門講座やミサの助祭奉仕、そして教会学校の子供たちと関わりながら、将来高松で司牧するための体験を積んでいます。もし、東京に来られたらぜひ北町教会にもお出で下さい。

夏休み中は高松教区で助祭として過ごさせていただきました。教区の事務室で教区の運営について学んだり教会の手伝いをしたりしながらすごすことが出来、とても充実した夏休みでした。

また、8月14日からは母国である韓国でAYD（アジアの若者たちの集い）に参加出来ました。特に今年は教皇様も来られ、そこに15日から20日までブラザー八木の引率の高松教区の青年たちとも教皇ミサを含む韓国ツアーをご一緒出来ました。

今年の夏は雨が多く降っていろんなところで被害がありましたが、一緒にお祈りを捧げましょう。

皆さんも何より体に気をつけて、これからの良い季節を過ごしてください。

ひと

天国の夫に見守られて”

坂出教会　佐柄和子さん（68歳）

左 佐柄和子さん

ご主人が35歳で癌のため天に召されたのは35年前。涙の乾く間もなく、残された8歳から3ヶ月の3人のお子さんを育てるため、彼の入院先のマルチン病院のシスターの世話で、マルチンの園の調理士として働きはじめられた。

その後家族全員で受洗の恵みをうけ、現在まで教会の聖歌隊員として活動している。また毎年の同病院や、同施設のバザーでは、みんなを笑わせながら、てきぱきと働く彼女の姿が見られる。

また子どもたちが成長し一段落した50歳の時持ち前の向学心が燃え始め、大学の通信教育で栄養学を学び、定年を迎えると同時に大学に入学。さらに大学院に進学、マルチン病院の患者さんの栄養指導の実績から遂に修士号をとってしまった。

この間婦人之友の家計簿での予算生活が、三人の子供の大学進学や、結婚など大変な中で役に立ったことを婦人之友誌に報告し昨年掲載された。

その後、各地からの講演依頼が舞い込む。病気の友人や恩人のお世話で多忙な中、それにも対応する。

前述の記事の中で「見えない方の愛と、人の暖かさを受けて人生を歩んでこられた」と語った。

坂出教会　曽我部輝子

テゼ 聖歌 沈黙 そしてローソク

毎月、第一、第三金曜日の午後七時から桜町司教座聖堂では、諏訪司教様を中心として十数名が参加をしてテゼの祈りを捧げています。シンプルにギターの伴奏のみでテゼの歌を何回も繰り返し、祈りとしています。だいたい一時間と少しくらいになります。

毎回、祈りの意向が決められており、作成されたみ言葉と黙想への導きのことばを丁寧にテゼの歌に合わせて深めていきます。深められたその日のひとり一人の心と言葉を分ち合い、共同祈願へとつながります。

テゼの祈りをするようになり四年くらいなると思いますが、テゼ独特のスタイル（わずかな照明と数多くのローソク）と沈黙は、私たちを祈りへと、より近くに導くものです。個人的にも、その日の仕事に疲れたままテゼの祈りに参加する時は、少し重く感じるときも有りましたが、それでも不思議です、終わった後には解放感と軽い気分に満たされています。

けれど、祈りには嬉しい思いと苦しい思いがたくさんあり、世界中での様々な出来事を通して終わることがありません。だからこそ、続けて皆と一つになってより近くで祈り、分かち支え合うことは大切だと思います。絶えることないローソクの火がそれぞれ一人一人を照らし、不安な私たちの心に灯りをともしてくださいます。

これからも、テゼの祈りを通して温かな火でともされた心を多くの方々と分かち合いながら、すべての人の救いを願い、主を賛美し続けることができますように。

ぜひ、一度テゼの祈りにご参加、ふれて見てください。

井川美佳

ちょっと ひといき

神様の愛

神様の愛は
何処にあるかを知って
いますか

あなたのあなたの
あなたの胸の中にある
のです

他の感情で
今は隠されていますが
その愛を
有効に使用しないのは
損です

神様の愛は使っても使っ
ても
使いきれないのですから

ミサの疑問や悩み分かち合う

全国典礼担当者会議

自己流のミサの司式になっていませんか？

―「総則」に沿ったミサの司式とは―

ミサの司式に関して「新しく移動してきた司祭と前の司祭とでは、ミサのささげ方が異なることがある」、「別の小教区のミサに参加したら違うことを行っていた」、「叙階式のような共同司式ミサのとき司祭団の動作や所作が揃っていない」というような指摘がある。

２０１４年度全国典礼担当者会議が9月2日～3日まで軽井沢の御聖体の宣教クララ修道院で開催された。

ミサを司式するとき、規則の解釈の違いや思い込みなどから、司祭によって司式の仕方や動作・所作などが異なっていないか、また「自己流」になってしまっていないかなど、全国の典礼担当司祭や信徒が集まり、3日間にわたって分かち合いを行なった。

司式に際して必要な統一を保ち、簡素でありながらも美しいミサとなるよう、特に典礼注記（ルブリカ）や「ローマ・ミサ典礼書の総則」の中で見落としやすい点や忘れがちな点を取り上げて再確認した。

今回の集まりはミサの司式に関して日ごろから司祭や信徒が感じている疑問や悩みを分かち合う良い機会となった。

また日本語版「ローマ・ミサ典礼書の総則」が正式承認されたこの機会に、ミサ全体にわたり、総則に照らした言葉や所作など確認した。

この確認事項は次回開催される日本カトリック司教総会で周知・確認・承認された後、信徒への周知が図られる予定である。

岩永神父様・シルバー神父様 ご逝去

昨年司祭叙階60周年を祝い、来年1月に90歳を迎えられようとしていた岩永神父様が9月2日（火）小豆島町立内海病院で亡くなられた。シルバ神父様も同様に今年司祭叙階60周年を記念したばかりでしたが、高松教区で働かれたお二人の司祭を続けて失うことになるとは教区民にとっては口惜しいとしか言いようがありません。

お話によれば、岩永神父様はご自身の出身教区の長崎教区司祭になられることがご希望だったとのことですが、そのご意志を胸に収め、神のみ旨として大阪教区司祭として叙階されることを受け入れられ、また高松教区設立に当たってはまた高松教区司祭への任命をも快く受け入れられ、これまで長年にわたり高松教区での司牧活動に当たってこられました。

番町教会や桜町教会、長尾聖母幼稚園での司牧を経た後はお亡くなりになるまでの長きにわたって小豆島での司牧に専心され、その間、ご苦労の中で小豆島の特別養護老人ホームの設立にも尽力され、島の人々のためにも多くの汗を流されました。

最期は病床の苦しみの中にありながらも周りの人に対する労いと感謝に徹された姿が本物の司祭の姿として輝いていました。

谷口　広海

日本人の心を求め日本人のごとく生きにし司祭でありき
幾度の試練に耐へし師ならむ白皙の頬の安らなるさま

芙蓉

阿南教区担当司祭シルバー神父様が、8月21日朝、帰天されました。「今から、入院するからね。」と仰って一週間後のことでした。19日には、ベッドを起こされて17日よりも良い状態でしたが、こんなにも速く天に召されるとは思ってもいませんでした。

シルバー神父様はここ数カ月、具合が良くない時もあったでしょうに、今回入院するまでもミサをお立てになっていました。そのお姿から信徒方は素晴らしい福音を頂いたことでしょう。宣教師として、今日まで日本でお働きになられたシルバー神父様。その生き方は、私たちにカトリックの精神を教えて下さり、「後悔のない人生だった。」とも仰られたそうです。日本人の心、文化を知るために和のたしなみを数多く学ばれ、なかでも和太鼓を愛され車中でもそのCDを聞かれるほどでした。

8月21日には、阿南教会でお別れ会が行なわれました。信徒の方々は、悲しみの中この日が来たことを真摯に受け止められ気丈にミサに与られていました。22日は鳴門教会でお通夜が行なわれました。シルバー神父様が、人生の半分を過ごされた教会です。各界からの参列者、信徒の方々で御御堂はいっぱいでした。23日は、徳島教会で葬儀ミサ・告別式が諏訪司教様司式で執り行われました。オブレート会と教区の司祭方25名が内陣でシルバー神父様をお囲みしてのごミサでした。

いつものようにシルバー神父様と交わした「またね。」が大切な言葉となりました。そして、司祭叙階60周年をお祝いした時と同じ笑顔で教会を後にされたシルバー神父様は、いつものようにダンディでした。

桑原　稔実

今、平和を感じられますか？

中島町教会で平和祈るミサ

２０１４年８月10日の日曜日、午前9時30分からカトリック中島町教会で、平和を祈るミサが捧げられた。

先の台風12号は１０００㎜を超す大雨をもたらし、各地の川は増水し非常に心配しました。また11号は全国に多くの被害をもたらし、高知でも安芸教会は強風と大雨で屋根が破損、住宅や街路樹も飛ばされたり倒れたりしました。

諏訪司教様は「平和を祈るミサ」のために前日の土曜日夕方に高知に入られることになっていましたが、台風には抗えず当日来てくださいました。交通事情も悪く危険な中をおいで下さった司教様に感謝しています。

さて、この日の福音朗読は「イエス、湖の上を歩く」の箇所でした。弟子たちは逆風で荒れる波に悩んでいた。しかしイエスが湖の上を歩いて船に乗り込むと風が静まった。この朗読の後、説教の中で司教様はおっしゃいました。「今、平和を感じられますか？」

高知地区でのごミサは日本語でしたが外国人も多数参加していました。ミサに続いて、祭壇の上にも前にもローソクを灯してテゼの祈りをしました。静かに祈ったり歌ったりして、平和についてより深く考え祈ることができました。この後は司祭館に集まって食べたり飲んだりしながら分かち合い、良いひとときを共有しました。

私たちの教区の各小教区でも平和のためにミサを捧げていると思います。これからも8月に限らずいつも、平和を願い祈りましょう。

第42回教職員研修会

一人ひとりの子どもを見つめる

〈高松教区幼稚園連合会〉

カトリック高松司教区幼稚園連合会主催の教職員研修会が、7月30日～31日、松山市のホテルにて、「一人ひとりの子どもを見つめる心」というテーマで開催されました。

今回で42回を迎える研修会には、四国4県の22のカトリック幼稚園から124名の教職員が参加しました。第1日目は、「最も小さな者を大切にする」という福音に照らし、近年増加している援助を必要としている子どもに目を向け「気になる子どもの特性を生かす保育」と題して、愛媛大学教育学部教授である吉松靖文先生が講演されました。気になる子どもは孤立しがちですが、吉松先生はその特性を生かし、人の役に立つことを経験させ、その喜びを通して社会に貢献させること、互いに助け合い、協力し合って共生することが大切であり、それを幼児教育の中で培う必要があると指摘されました。

2日目は、聖ドミニコ宣教修道女会日本管区長であり、元聖カタリナ学園光ヶ丘女子高等学校校長の中山紀美子シスターが、「いっしょに」と題して、マタイ福音書を引用し「インマヌエル」キリストご自身が私たちと共におられる神であることを思い起こしながら、いろいろな話を通して、人の心に寄り添う「いっしょに」の大切さを話されました。

また、一日目の講演の後に、教職員の分かち合いと数年ぶりの園長会が行われ、「福音を伝える」というカトリック幼稚園の使命をどのように果たすかについて連合会々長である諏訪司教様を交え、各幼稚園の現状に耳を傾ける有意義な時間を過ごしました。

この研修会を通して、教職員が神様から委ねられた一人ひとりの子どもを見つめる心を育て、更にその心に寄り添った者となるように願いつつ、感謝のうちに研修会を終えました。

医療のともしび（42）

豊かさの中で貧しさを忘れないでください。

カトリック中央協議会の公式記録によると、マザーテレサは、３度来日している。

最初の来日の１９８１年４月２４日に、東京山谷地区と大阪西成のあいりん地区を訪問している。

私は、広島の医学部を卒業後、大阪の淀川キリスト教病院で１年間研修を受けたのだが、病院の意向で、大阪市立大学医学部整形外科であと１年間研修を受けた。そのうちの３カ月間を、大阪あいりん地区の社会医療センターで勤務した。マザーテレサが来られた翌年のことだ。同地区は、いわゆるドヤといわれる簡易宿泊施設の建ち並ぶ街だが、お金のない路上生活者が多くいた。また、昼間から酔っぱらった人が、路上に多く寝ていた。

センターの朝は、日雇い労働者とその給料をピンハネする手配師であふれかえり、出勤時にネクタイ、スーツ姿でない私は「兄ちゃん、え一仕事あるで。」とよく声をかけられた。

患者の多くは、いわゆるケガを労災扱いにしてもらおうという人だった。労災になると仕事をしなくても、給料がもらえるからだ。赴任初日に、先輩医師から、「古い指の骨折を、新しい骨折と間違えるなよ。」と忠告された。指のハレ等を診ないでレントゲンだけ見ると、指の先の骨（末節骨）の古い骨折は、折れたままになっているからだ。骨折の手術患者も多かったが、そのほとんどの人の術前検査は、結核と梅毒の既往があった。その当時の日本に、まだこういう所があるのだと驚かされた。

マザーテレサは、東京山谷、大阪あいりん地区を訪問して、酔った人が多く路上に倒れているのに、誰も手を差し伸べなかったことに、大変困惑したそうだ。そのことを、彼女は、こう話していた。

「豊かな美しい国で孤独な人を見ました。この豊かな国の大きな心の貧困を見ました。豊かそうに見えるこの日本で、心の飢えはないでしょうか。だれからも必要とされず、だれからも愛されていない心の貧しさ、日本の皆さん、豊かさの中で貧しさを忘れないでください。」

２０１４年の今も、私たちのとって重い言葉だ。

医療法人社団聖心会阪本病院理事長　阪本一樹

教区スケジュール

9月
14日（日）十字架称賛　祝（年間第24週）
15日（月）敬老の日
20日（土）聖アンデレ金と同志殉教者 記 宣教司牧評議会役員会13：00
21日（日）年間第２５主日
23日（火）聖ピオ司祭　記　秋分の日　前田大阪大司教着座式
24日（水）深堀敏司教命日（6周忌）
28日（日）年間第２６主日【世界難民移住移動者の日】東讃Ｂ堅信式10:00
29日（月）聖ミカエル　聖ガブリエル　聖ラファエル大天使　祝
30日（日）聖ヒエロニモ司祭教会博士　記　静修14：00
10月
1日（水）聖テレジア（幼いイエスの）おとめ教会博士　記
4日（土）聖フランシスコ（アシジ）修道者　記
5日（日）年間第２７主日
7日（火）ロザリオの聖母　記
12日（日）年間第２８主日
13日（月）体育の日
15日（水）聖テレジア（イエスの）おとめ教会博士　記　朝祷会 6:30
18日（土）聖ルカ福音記者　祝
19日（日）年間第２９主日【世界宣教の日】徳島地区集会
26日（日）年間第３０主日　愛媛地区集会
27日（月）～29日(水)難民移住移動者委員会全国研修会in坂出
28日（火）聖シモン聖ユダ使徒 祝 顧問会10：30 静修14：00

ボランティア募集中！ TEL 070-5512-6819 E-mail:tk-koho@mxi.netwave.or.jp

ボランティアに係る交通費を補助します。
短期：半額補助　長期（１週間以上）全額補助

ＴＳＣ便り

東日本大震災復興支援全国担当者会議報告 下

第4回となる同会議に、高松教区の3名は6月24日～25日に現地視察と全体会に参加した。前号に引き続き、今号は福島の北回り視察コースと全体会の報告をしたい。

「希望の牧場・ふくしま」

8時30分、原町ベース出発。車窓から被災地を見ながら南下。道路端に「除染作業中」の旗が立ち並び汚染物を詰めた袋が並ぶ。浪江町の吉沢牧場に入る。空間線量の高いところであり希望者だけが下車して見ることになった。

草むらにおいた線量計はほぼ振り切れて測定できない10マイクロシーベルトくらいでしょうと言われる。そんな中を数十頭の牛が精気なく動いて積まれた牧草を食んでいる。

ここは「希望の牧場」と呼ばれ震災と原発事故の中を生き延びてきた牛を活かす道を考え、寿命を全うさせようと全国に発信して協力を求めている。

原発へやり場のない憤り　水も米も　生活脅かす放射線

松木教会で

「愛の支援グループ」代表の鈴木さんは放射線がどんなにか生活を脅かしていることを事例をあげて話された。

豊富な飲料水があり大丈夫と言われても飲料水を買ってしまう。米も県内のものは不安を感じている。原発に対してやり場のない憤り、除染に対する不満、不信。公園の芝を張り替えてもだれも遊ぼうとしない。

そんな中、除染のあとに野菜を植えて育った喜び、子ども達を県外に遊ばせようと資金を稼ぐために、かぶと虫採りに頑張る神父さんの話などを聞きほっとする。

また、仮設住宅を訪ね、お茶をともにしながら居住者の話に耳を傾ける支援グループ。

仮設の人は現実を見つめながら「元気になりたいから元気っぽくしているのよ」と、言われるそうだ。元気を支える活動が続く。

仮設住宅訪問

仮設住宅自治会長に話を伺うことができた。

ここ宮代仮設住宅は福島市内から離れたところにあって45世帯70人で、浪江町の人が避難している。日中は自宅に帰ることができるが荒れ放題となっている。帰宅の目処も立たず、また折角帰っていてもまた避難という不安がある。半数くらいの人は捨てる覚悟でいる。

仮設住宅は中国製で、カビや雨もりがあるが簡単に補修してもらえない。

福島の現実をみつめて

全体会を終えても重い課題に取り組む手がかりさえ見出せない。原発は大きな禍を残した。

3年も過ぎ福島は忘れ去られようとしているが、未だ放射線の中での生活を余儀なくされ苦悩している人たちのいることを忘れてはならない。風評被害で生活の基盤を失った人の話も聞いた。原町ベースで紹介された相馬高校生の演劇は原発を告発し、負の遺産とした。

次世代を担うこども達のためにも心から安心できる世でありたい。それこそわれわれのなすべきことであると思っている。

貴重な会話がいっぱい　忘れてはいけないこと

平成26年3月20日～23日
〈福島県相馬市、宮城県山元町〉

各地ボランティア集合体によるイベント風

①ボランティア活動内容

1日目。うどん打ち体験班、仮設住宅にメッセージカードを配る班、うどん炊き出し班に分かれる。うどん打ち体験班は、中野うどん学校の協賛により、実施。みなさん、楽しんで体験。特に、足で踏むときは、音楽をかけて踊りながら、みなさんの笑い声も。

麺はつくったあとお持ち帰り。炊き出しうどんは行列が出来た。

2日目。北海道や地元のボランティアさんと合同のイベント。うどん打ち体験班、うどん炊き出し班、あん餅雑煮班に分かれる。お祭りのようなイベントだったので、親子連れなどたくさん参加していた。

②感想

初めての福島。活動後、現地の方が話しかけてくださり、その会話がとても貴重でした。実は、「会話の交流を求めていること。もっと話したい・聞いてほしいと思っている」ということを、教えてくださいました。

「今でこそ、こうやってボランティアに来てくれるようになったけど、はじめは三陸ばっかりだった。今でも、復興しているところはほとんど三陸や。我々には、地震と津波と原発があるんだ。」とても明るいおばちゃんも、たばこを吸いながら、「こう見えても、あの部屋（仮設住宅）に帰ったら、寝る前には涙がでるんよ」と話された時は、返す言葉がありませんでした。福島には、必ずもう一度来なければならないと思いました。

２度目の山元町。２年前に比べてがれきはなくなっていました。いちごハウスがたくさん見えました。小学校の運動場にあった山積みの車もなくなっていました。でも、校舎の中に入らせていただいた時、涙が止まりませんでした。その時の状況が浮かんでくるようで、やはり忘れてはいけないことだと思いました。

③これからの取り組み

・今回、体験したことを、必ず多くの人に伝えようと思います。まずは、メッセージを書いてくれた幼稚園の子どもたちとその保護者に。そして、身近な人たちに。

・『傾聴』の大切さを実感しますが、私にはとても苦手なことです。日々の仕事やプライベートな時間に、人の話を聞く力を少し磨いていきたいと思います。

・継続的に、ボランティアに参加していきたいと思います。

長尾聖母幼稚園教諭
森本　祐子

お知らせ（ワンコイン）

昨年から約1年間、教区女性の会の皆様のご協力のもとに続けて参りましたワンコイン運動は諸般の事情と教区司祭・宣教司牧評議会の決定により9月を以て終結いたします。ここに教区民の皆様にご報告申し上げます。感謝

TSC高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含お米券）
6・7・8月分 274567円
（内ワンコイン674335円）
累計 14683779円
9月2日現在

新刊書籍紹介

教会法で知るカトリックライフ Q&A40

信仰生活に深くかかわりながら一般にはなじみの薄い教会法を、Q&A形式でわかりやすく説明。勉強会のテキストや豊かな信仰生活ための解説書として、条文に触れながらカトリック教会の生活について理解を深めます。

◎著者　菅原裕二
第1部　教会の生活
教会と教会法／教会の組織／小教区／修道生活／教会の出版物
第２部　秘跡
秘跡の権利と義務／ミサ／ゆるしの秘跡／叙階／結婚
定価（本体700円＋税）ドン・ボスコ社

告　知　板

カトリック高松教区人権を考える委員会
共催：日本カトリック正義と平和協議会
2014年錬成会のご案内会
テーマ
「今の日本の流れと教会の目指す方向」

期日：2014年11月2日（日）1時～3日（月）
昼食後解散（1泊2日）
場所：カトリック四国会館2F
講師：林　尚志　神父
（下関労働教育センター長：イエズス会士）
定員：30人（定員になり次第締め切り）
費用：1万円(ホテル・朝食・交流会・弁当)
宿泊：ビジネスホテルパークサイド高松
（高松市栗林町TEL：087-837-5555）
申込先：高松教区人権を考える委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-4
TEL（087）831-7455　FAX 831-6629
（桜町教会・中越）

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園